



松枝 友久 議員

地産地消モデルタウン事業 (くるるん周辺野菜生産)について

問 答

地域農業活性化のモデルであり当初構想が実現できるよう支援していく、それが地域活性化につながる。

問 今回は、総務建設産業常任委員会として、この事業の重要性を理解いただき、くるるん周辺農地の現地調査や生産者の皆さんとの協議の場を設けられ、事業成功のために、議会として検討いただいたことに対し、心から感謝を申し上げます。

町長 総務建設産業常任委員会として、この事業の重要性を理解いただき、くるるん周辺農地の現地調査や生産者の皆さんとの協議の場を設けられ、事業成功のために、議会として検討いただいたことに対し、心から感謝を申し上げます。

また、地産地消モデルタウン構想が目標に少しでも近づき、町全体に波及するよう願うものである、との言葉を聞き、私を初め職員にとりましては大きな励みとなるものであり、この事業の成功に向けて、さらなる努力をしてみたい。

構想は、平成21年度から平成25年度までの「JA福岡大城第2次農業振興計画」で「地域農業モデル」として位置づけられ、この考え方は平成12年3月に町が策定した「みどりゆたか」で、おしゃな農村づくり基本計画書」及び同じ時期にJA大木町が作成した「みどりゆたか」で、おしゃな農村に(基本構想)において、大木町農業の目標として定められたもので、長い視点で見ると、地産地消モデルタウン構想はこの目標実現に向けた取り組みであると考えている。

今回の地産地消モデルタウン事業(くるるん周辺野菜生産)については、おき循環センター「くるるん」2期事業で整備しました農産物直売所・レストランと連動して農産物の地産地消を推進し、地域農業の活性化を図ろうとするものである。

この事業を実施するに当たり、地域農業の実態を把握し、今後の方向性を具体化する必要があることから、平成20年度に熊本大学の徳野先生のご



くるるん周辺野菜生産者との懇談状況

これらの支援策として、町・JAでは、野菜づくり技術指導の専門員を配置し、野菜づくりの計画や加工品推進計画など対策を講じているが、十分に役割を果たしていない状況にある。今後、この会議を活性化させ、

協力を得て、周辺地域の集落点検調査を実施した。さらに、周辺地域の代表の方々に集まっていただき、営農計画の検討を行い、地産地消モデルタウン構想を描き、周辺地域への説明会を実施している。

しかし、一部の圃場において夏場の除草管理が徹底せず、地域の皆さんや地権者の方々に迷惑をおかけする事態になってしまい、このことは、管理責任や管理体制の不備によるものと考えており、しっかりと反省し改善策を講じる必要があると認識している。

改善策として、管理体制の明確化については、循環センター「くるるん」や道の駅の運営体制については、環境課の管理・指導のもと、来年早々に新法人を設立したいと考えている。

次に、農業法人の育成・支援については、産業振興課長を座長とした「くるるんプロジェクト会議」を平成22年7月に立ち上げ、周辺農地の野菜作付計画や加工品推進計画など対策を講じているが、十分に役割を果たしていない状況にある。

ここが知りたい! 訴えたい!!

一般質問

12月定例会では、12月20日、7名の議員が質問しました。



くるるん周辺野菜農園と道の駅



遊具であそぶ園児



心を合わせて「わっしょい!」



やっぱりおいしいご飯

(質問順に掲載)

質問議員	主な質問事項	掲載ページ
松枝 友久	■地産地消モデルタウン事業(くるるん周辺野菜生産)について	5ページ
松枝 治幸	■指定管理者制度について	7ページ
中島 宗昭	■完全米飯給食の実現をのぞむ ■合併浄化槽維持管理負担の軽減を ■環境税の創設について	10ページ
小畠 裕司	■道の駅のさらなる発展を ■官民境界立会について ■学校給食納入食材について	12ページ
井上 護	■子ども・子育て新システム制度について	16ページ
山北清四郎	■学校教育について ■スポーツ振興について	18ページ
古賀 泰弘	■農業後継者担い手育成について ■TPP農業交渉について	20ページ